

## 『モズが枯れ木で』

11月。あの厳しかった酷暑が嘘のように一気に秋が来て、今、既に晩秋である。

ミカン、柿、栗で味わう味覚(み・か・く)の秋から鍋料理の季節を迎える。

我がまちづくり会社も、今年も10月18日、丹波ツアーを開催した。恒例の「自然農法実践会」の有機栽培の黒豆刈りと丹波薬草草樹公園を尋ね、薬膳料理を楽しみ公園内の薬草や草樹の鑑賞や薬草の湯に浸かり、帰路に紅葉の美しい渓谷・

川代公園に立ち寄り清流のせせらぎを楽しんできた。

山々に囲まれた丹波の里の刈り取った田に立つ柿の枯れ木には、熟した実が残されていた。冬支度までの鳥達へのお裾分けに残しておくのだと大人達から聞かされていた。とはいえ、この風景を見ると幼い頃に聞いた悲しい歌詞とメロディを思い出す。

モズが枯れ木で鳴いている オイラは藁を叩いてる  
 わたびき車はおばあさん コットン水車も回ってる  
 みんな去年と同じだよ けれども足んねえものがある  
 アンサの薪割る音が無え バッサリ薪割る音が無え  
 アンサは満州へ行っただよ 鉄砲が涙で光ってた  
 モズよ 寒いと鳴くがよい アンサはもっと寒いだろ

(サトウ ハチロー作詞 徳富 じげる作曲)



ある戦場カメラマンが語っている。「いくつもの戦場を見てきたが、東日本被災地での惨状は、それらをはるかに超えている」と。これから厳しい東北の冬が来る。

先住民・アメリカインディアンは、「新大陸」の「開拓者」達によって部族の対立につけ込まれ、仲間同士の戦闘・殺虐を繰り返させられた拳銃、彼等に土地を奪われていったという。悲しい「アメリカの歴史」である。

スローガンだけは勇ましい「頑張ろう ニッポン」だが、国も地方も内向きの指導者を頂いて、何処を目指しているのだろうか？ 百舌(モズ)も舌鋒こそ穏やかにではあるが警告しているのではないか。節電対策ではない別の意味の「エネルギー政策」として、国民・市民のエネルギー

をどこに向かって集中させてしようとしているのか、それとも重要な問題点から目をそらせるために意識的に分散させようとしているのか。

メザシを食いながら数々の改革を進めていった土光敏夫氏を書いた本に『鯛は頭から腐る』があるが、メザシも頭だけが腐るわけではない。頭が腐れば胴体も腐るのは勿論、頭が腐る状態にしてしまっている状態も問題なのだ。他人事ではない。支援を求める人への連帯をメザシ鯛。

\* まちづくりニュース掲載コラムのバックナンバーは当社ホームページ(<http://www.tmconet.com/>)でご覧いただけます。

### 第45回 アイボリーフォーラム

講師：三好 庸隆氏  
 武庫川女子大学教授 工学博士  
 PPI計画・設計研究所 取締役会長

### 『日本のまちづくり・建築計画で今何が課題か・・・、最近の仕事を通じて考えていること』

日時：2011年11月22日(火) 午後6時30分から  
 場所：ホテル・アイボリー 茜の間 参加費用：1,000円 ※事前にお申込みください。

### 第13回 アイボリー寄席

出演：桂 福車 @のみ 11月29日(火)  
 笑福亭 由瓶  
 桂 福丸  
 ① 午後3時開演 前売券：1,000円  
 ② 午後7時開演 前売券：1,200円

アイボリー寄席の前売券はホテルアイボリー ジオ鍼灸整骨院、鮮魚こばやし、豊中駅前まちづくり会社で販売しています。詳しくはお問い合わせください。



今月の川柳

作品募集

自由なテーマで作品をお寄せください。皆さまからお寄せいただいた作品の中から数点を選び、まちづくりニュースに掲載します。掲載作品にはアイボリー寄席(11月29日開催)の手ケットをペアーで差し上げます。※締め切りは毎月月末で、翌月中旬号で発表します。■郵送・FAXまたはメールで当社まで。